

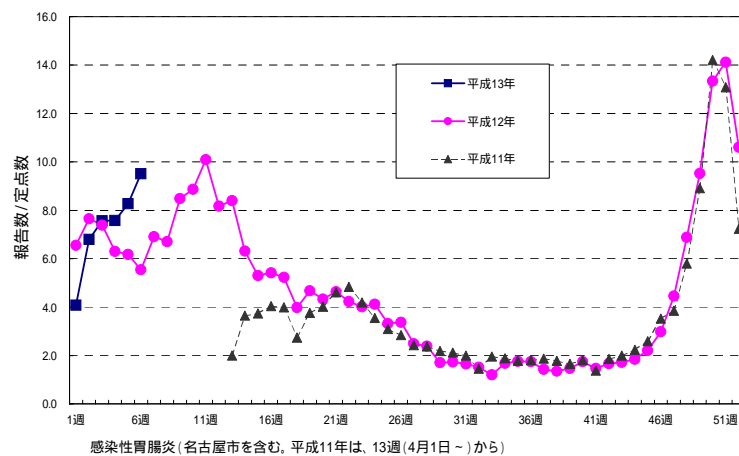
# 愛知県感染症情報

## 平成 13 年第 6 週（2 月第 1 週）

（コメント）

インフルエンザに流行の兆しが見られるので注意してください。インフルエンザの詳しい説明については、愛知県衛生研究所のホームページ（<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>）をご覧ください。

感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、報告数の多い状況が続いています。



（先生方からのコメント）

### ● 尾張西部地区

- ・ 1 歳男児 ディレクティジェンFluA（±）、ワクチン接種歴あり。他に 2 例のインフルエンザあり。麻疹 2 歳女、コプリック斑\* なし

（一宮市 あさのこどもクリニック）

注）コプリック斑\* 麻疹の感染早期に見られる粘膜疹

- ・ 病原性大腸菌検出者（0-1 6 歳女と 28 歳女、0-146 1 歳男、0-153 37 歳女）

（尾西市 城後小児科）

- ・ 今シーズン最初のインフルエンザ 6 名、全例FluA陽性、3 名にタミフル\* 使用、著効

（津島市 田中こどもクリニック）

注）タミフル\* インフルエンザA・B型治療薬

- ・ インフルエンザ 2 名は OIA 陽性でした。（13 歳女、5 歳男）

（立田村 谷本医院）

注）OIA\* A・B型インフルエンザウイルスを同時に検出する迅速診断キッドの一種。ただしA・B型の区別はできない。

- ・ ムンプス、髄膜炎有り。胃腸炎多く見られます。ムンプス流行のきざしあり。インフルFluA(+)
  - (岩倉市 なかよしこどもクリニック)
- ・ 水痘の流行が続いています。溶連菌感染症の小流行がみられています。
  - (江南市 みやぐちこどもクリニック)
- ・ 病原性大腸菌 EPEC(0-1) 16歳男  
麻疹 5歳女(麻疹ワクチン接種済)
  - (春日町 丹羽医院)
- ・ 高熱を主とする患者に咽頭よりインフルA - クイック行い陽性7名、陰性11名
  - (新川町 三輪医院)
- 尾張東部地区
  - ・ 感染性胃腸炎のうち、ロタ陽性1歳女、EPEC(0-1)3歳女。  
A型インフルエンザ 10歳男。
    - (瀬戸市 津田こどもクリニック)
  - ・ 今週もインフルエンザは1例もありません。成人、小児共に嘔吐、下痢が目立ったように思いますが、いづれも軽症例で1~2日で症状は改善するようです。伝染性紅斑、水痘、ムンプス、溶連菌等多種ありました。8ヶ月男児カンピロバクター(+)経過良好
    - (尾張旭市 佐伯小児科医院)
  - ・ アデノウイルスによる扁桃炎続く。
    - (美浜町 愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院)
  - ・ インフルエンザがみられる様になりました。溶連菌感染症、ムンプスもみられます。
    - (春日井市 かちがわ北病院)
  - ・ 乳児嘔吐下痢症1歳男(1人)水痘予防接種スミの子です。
    - (小牧市 鈴木小児科)
  - ・ インフルエンザA少数あり
    - (小牧市 小牧市民病院)
  - ・ 感染性胃腸炎は相変わらず流行が続いています。その他アデノウイルス感染が目立ちます。
    - (小牧市 志水こどもクリニック)
  - ・ ロタウイルス陽性の嘔吐下痢症が増加しました。
    - (東海市 東海市民病院)
  - ・ 3歳男(水痘ワクチン済)が水痘に罹患
    - (東海市 小児科ハヤカワ医院)

● 西三河地区

- ・ 病原性大腸菌 0-6 と 0-18 2歳女  
ロタウイルス抗原陽性 7ヶ月男、2歳男  
A型インフルエンザ FluA 陽性 9ヶ月・4歳・12歳の男、1歳・2歳の女  
インフルエンザ FluA 陰性 臨床診断 6歳男  
(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)
- ・ FluA 陽性 3歳男  
(豊田市 田中小児科)
- ・ インフルエンザ A 2歳女 (H3、N2)  
(豊田市 やふそ小児科)
- ・ インフルエンザ B 15歳女 FluA (-) OIA (+)  
(豊田市 保見診療所)
- ・ マイコプラズマ肺炎 6歳女  
(岡崎市 花田こどもクリニック)
- ・ FluA (+) 9歳男  
(岡崎市 にいのみ小児科)
- ・ インフルエンザ 3例：全例 FluA (+)  
(岡崎市 粟屋医院)
- ・ 溶連菌感染症が目立ちます。  
(碧南市 永井小児クリニック)
- ・ 麻疹多い。突発疹も多い？  
(知立市 宮谷クリニック)
- ・ インフルエンザ (FluA 陽性) 13歳女子・感染性胃腸炎が再び増加、白色便の例あり。  
(西尾市 やすい小児科)
- ・ 2歳女児水痘にムンプスを合併・感染性胃腸炎まだかなり認められます。  
(西尾市 山岸クリニック)
- ・ マイコプラズマ肺炎 10歳女  
(足助町 足助病院)

● 東三河地区

- ・ インフルエンザについて  
インフルエンザ OIA は 9例目ディレクティジェン FluA30例目ではじめて陽性者が出ました。  
13歳女ディレクティジェン FluA(+ )、インフルエンザ OIA(+ )  
8歳女、4歳男ディレクティジェン FluA(+ )  
シンメトレルがすべて有効でした。

(豊橋市 大谷小児科)

- ・ 水痘流行中の園があるようです。

(豊橋市 富田小児科)

- ・ FluA(+)のインフルエンザの患者さんが散発しています。依然として嘔吐・下痢の患者さんは多く見られる。

(豊橋市 あずまだこどもクリニック)

- ・ 今週、豊川市内麻疹 3 名あり。(1 歳女、4 歳男、17 歳女)いずれもワクチン未接種。流行の可能性あり。

(豊川市 ささき小児科)

(1~3 類感染症の発生状況)

発生はありません。

(全数把握の 4 類感染症の発生状況)

AIDS 患者 1 名。

レジオネラ症患者 1 名。

#### ◆ 病原体検出情報

- ・ 師勝保健所管内の患者から 1 月 19 日採取の検体(咽頭拭い液)から A 香港型インフルエンザウイルスが検出されました。
- ・ 一宮保健所管内の患者から 1 月 24 日採取の検体(咽頭拭い液)から A ソ連型インフルエンザウイルスが検出されました。

第 4 週(平成 13 年 1 月 22 日~1 月 28 日)の 4 類感染症の全国状況  
感染性胃腸炎、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数が例年にくらべかなり多くなっている。感染性胃腸炎は宮崎県で定点当たり報告数 29、愛媛県と三重県で 19、宮城県で 18、徳島県で 16 と多くなっている。麻疹は例年の同時期とくらべ定点当たり報告数がかなり多く、とくに高知県では定点当たり報告数が 4.4 となっており、大分県でも定点当たり報告数が 1 を超えている。流行性耳下腺炎と水痘も過去 5 年の同時期と比較してかなり定点当たり報告数が多くなっている。水痘は宮崎県で定点当たり報告数 7.1 と多く、新潟、長野、愛媛、沖縄の各県でも定点当たり 4 人を越えている。流行性耳下腺炎は熊本県で定点当たり報告数 3.5 と多い。伝染性紅斑の定点当たり報告数が 2001 年に入って漸増しており、過去 5 年間の平均と比べるとやや多い定点当たり報告数となっている。インフルエンザは患者報告数が増えて 14 の府県で定点当たり報告数 1 を越えた。咽頭結膜熱は冬季としては例年になく定点当たり報告数が多くなっている。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋)

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供)

## 愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

連日30をこえ、ブ-ゲンビリアやハイビスカスの咲き乱れるパキスタン・カラチの調査から戻ってきました。雪もよいの毎日に震えあがっております。いつも貴重な情報を有難うございます。1月後半のまとめをお送りします。

1。名古屋市内：インフルエンザの発生は相変わらず少く、散発（第一日赤有吉先生）、ゼロ（名鉄病院宮津先生）、高熱でもインフルA（-）の児が目立つ（国立病院伊藤先生）、インフルエンザ様疾患ほとんどなくキット陽性者もなし（城北病院渡辺先生）、なし（千種区今枝先生）、12月に少数のみ（三菱病院岩間先生）、出ていません（中京病院柴田先生）、月末にインフルA 2例（労災病院山田先生）、熱性痙攣で入院する児が目立つがインフルA陰性（大同病院水野先生）などのお手紙が目につきました。気道感染症としては仮性クル-プの発生が続き要入院例が目立ち（名鉄・宮津先生；麻疹に合併した例あり、第一日赤有吉先生、大同・水野先生）、RSウイルス感染症（国立・伊藤先生、城北・渡辺先生、労災・山田先生）、マイコプラズマ感染症を含む肺炎・気管支炎も相変わらず発生しています（名鉄・宮津先生、第一日赤有吉先生、大同・水野先生）。ウイルス性胃腸炎・感冒性嘔吐下痢症の発生も続いています。ロタウイルス陽性例と陰性例が混在しているようです（名鉄・宮津先生、第一日赤有吉先生、城北・渡辺先生、大同・水野先生）。その他溶連菌感染症（名鉄・宮津先生、三菱・岩間先生、労災・山田先生）、EBウイルス感染症（三菱・岩間先生、大同・水野先生）などのお手紙で、第一日赤有吉先生と三菱・岩間先生からは麻疹の発生の報告がありました。まだ散発例のようですが今後の流行に注目したいと思います。

2。尾張地区：江南市昭和病院西村先生からは水痘が目立つ、岩倉市永吉先生からはインフルエンザA陽性患者5例あり全員散発例で流行はなく胃腸炎も少い、瀬戸陶生病院山口先生からインフルエンザA、ロタウイルス感染症ともになく、RSウイルス感染症は1月に入って著減、ウイルス性胃腸炎も減少、川崎病が年末から7例あり、常滑市民病院上田先生からは溶連菌感染症、細菌性腸炎（カンピロバクター）、ウイルス性胃腸炎（脱水による入院例あり）、細気管支炎や仮性クル-プによる要入院例ありとのお手紙です。

3。三河地区：豊田地区からはインフルエンザ陽性者なくRSウイルス感染症、マイコプラズマ感染症、ロタウイルス感染症が散発、要入院例あり（トヨタ病院木戸先生、加茂病院梶田先生）、安城更生病院小川先生からはロタウイルス腸炎が散発中で要入院例あり、マイコプラズマ感染症やや多い、知立市近藤先生からは溶連菌感染症パラパラ、病原性大腸菌（O18）の同胞3例感染あり、伝染性紅斑が小学校で発生、刈谷市田和先生からは溶連菌感染症とムンプスが散発、2～3日高熱を出すものが多いがインフルエンザAは陰性、碧南市永井先生からは幼児の嘔吐、腹痛を主訴とする胃腸炎と溶連菌感染症、水痘が目立つ、豊橋市宮澤先生からは感冒性胃腸炎、ロタウイルス感染症、ムンプス、水痘が少数例ありとのお手紙でした。

4。まだまだインフルエンザ要注意の季節です。先生の地区のインフルの年齢、主症状、ワクチン接種状況など是非お知らせください。有難うございました。

2001年1月12日号（76巻2号）

エチオピアにおける全国感染症動向調査（サ - ベイランス）と地区対応状況。エチオピアにおける感染症の実態調査の状況と対策立案状況に関する長文の報告とコメント。サ - ベイランス評価の目的は現行の調査網・調査網強化の問題点の把握。方法としてWHOの勧告した方式の実施状況が各地区で調査された。その結果、17疾患（コレラ、ペスト、黄熱、髄膜炎菌髄膜炎、麻疹、ポリオ様疾患、新生児破傷風、細菌性赤痢、マラリア、狂犬病、腸チフス、回帰熱、エイズ、ギニア虫、レブラ、結核、性感染症）が33州中18州から定期的に報告されていた。疾患別の報告制度（レブラ/結核の報告は定期的に実施されている）、地域レベルの集団発生緊急時用の医薬品準備状況も報告されるようになった；表あり。非常に報告率は低く、報告方法 = 電話の普及率、ポリオ様疾患の発生報告状況やウイルス検査材料収集率が低いのが目立つ。

インフルエンザ：01年1月。フランス：A型、ニュー - カレドニアタイプ。

1月5 - 11日届出疾患：コレラ。ジブチ、ソマリア、南アフリカ、香港、イラン、オマ - ン、マ - シャル諸島。

2001年1月19日号（76巻3号）

感染症発生に関する流言：ウイルス性出血熱がコンゴ共和国で集団発生していると一部で報道されているがWHOの定期的な定点調査では否定的な結果しか得られていない。

エボラ出血熱続報：ウガンダ。1月9日時点で以前から発生していたグル地区で新しい確定例1例。2000年8月をピークに発生は終息傾向にあり、他地区における流行波及はおこっていない。

オンコセルカ症（注：寄生虫症。フィラリア症の一つで流れの早い川に発生するブヨが媒介。感染局所のリンパ節腫大 全身感染眼球角膜・結膜感染 失明。河沿いに多発、リバ - ブラインドネスと呼ばれている）。常在地区住民に半年毎に抗フィラリア剤の一斉投与を実施して根絶が試みられている。99年11月、グアテマラ・アンチグアで南北アメリカ諸国の会議が開催された。地域ぐるみの一斉投与で侵淫度の高かったコロンビア、エクアドル、グアテマラ、メキシコ、ベネズエラ、いずれの諸国も1991年/99年比で確実に減少に成功している。

メジナ虫（注：寄生虫症。中間宿主はミジンコ。感染ミジンコのいる生水を飲み感染。全身をまわった成虫は足関節など下腿皮下に寄生して尾末端が皮膚を破って産卵、激しい皮膚炎をおこす）。イエメンでは1997年9月以降発生報告がなく根絶したと思われていたが1999年のポリオ生ワクチン一斉接種に際して調査した結果330例のメジナ虫感染患者の報告があり、2名の疫学専門家が調査した。報告の多くは他の皮膚疾患であるか、陳旧性の患者であり予防状況は良好と思われた。

インフルエンザ：01年1月。フィンランド、ドイツ、イスラエル、スロバキア、いずれもA（H1N1）。

1月12 - 18日届出疾患：コレラ。ベニン、マダガスカル、マレ - シア